

財団奨学生 イギリス留学中間報告 2

グローバル補助金奨学生 片岡 舞

マンチェスター大学大学院

国際開発学：貧困、紛争、再構築コース

イギリス、マンチェスター大学の修士課程に留学中の片岡舞です。今月で1 Semesterが終了したので、これまでの留学生活の振り返りと近況をご報告させていただきます。

▶ クリスマス

クリスマスの一ヶ月程前から、市の中心部はすっかりクリスマス色に包まれ始めました。広場ではクリスマスマーケットが開催され、プレゼント用の小物やヨーロッパ各地の伝統的な食べ物を売る屋台などで溢れかえり、大変にぎやかでした。さらに、現地カウンセラーのイアンさんは、私と他の奨学生のためにイギリスの伝統的なクリスマスランチを体験させてくださりました。



▶ 学期末試験

12月に入ると授業はほとんど終わり、今 Semesterの最後の課題として、エッセイ計3本、期末試験が1つ課されました。そのうち2つのエッセイでは、市民社会を取り上げ、貧困削減と平和構築に市民社会がどういう役割を果たしうるか、また実際にどの程度貢献しているかについて検証しました。残りは紛争分析の授業のエッセイでは、greed theory (紛争は人々の食欲さによって引き起されるという理論) について先行研究をまとめ、コンゴ紛争を事例に取り上げ、人々が天然資源などから得られる経済利益のために紛争に参加するメカニズムについて執筆しました。

▶ ロータラクト

大学にロータラクト・クラブがあったので、所属することにしました。マンチェスターのロータラクトは国際交流・地域貢献・ソーシャルの3つのセクションに分かれており、私は地域貢献のセクションに入ることにしました。International Night というイベントでは、マンチェスター各地のロータリークラブからロータリアンをゲストに呼び、ロータラクトの学生がそれぞれの出身地の伝統料理を用意し、学生のプレゼンやクイズ、ビンゴなどをして楽しみました。クリスマスには靴下をホームレスの人々に配る地域貢献の活動も行いました。



➤ ロータリー

11月17日に、ウィルムズロー・ディーン・ロータリークラブのチャーター・ナイトに参加いたしました。また、11月26日には、ロータリー・ディストリクト・ファンデーション・セミナーに他の同地区に留学中の奨学生とともにご招待いただき、地区のロータリアンのみなさんの前で自己紹介としてプレゼンテーションいたしました。



➤ 1セメスターを振り返って

留学前から話には聞いていましたが、1年間のプログラムということもあり、授業数は少なくともひとつひとつが非常に内容の濃いものでした。きちんと授業を理解するためには事前にしっかり予習することが欠かせず、それに加えてエッセイやプレゼンテーションの課題があるときは、タイムマネジメントに苦労しました。勉強以外の面でも初めての一人暮らしに初めての海外生活で、最初は慣れないことも多かったです。徐々に生活のリズムを作ることができました。4ヶ月経ってもさまざまな場面で言語の不自由を感じることもあり、焦りを感じることもありますが、残りの留學生活はより計画的に、細かい目標を立ててこれまでの4ヶ月以上に成長したいと思えます。